

## 1. 伊達市における農・水産・畜産業の現状と本構想の目指すもの

### 1-1 伊達市の産業構造の現状と第一次産業の重要性

本市における産業構造を、就業者数の観点から見た場合、第1次産業が1,797人(10.8%)、第2次産業が3,038人(18.3%)、第3次産業が11,754人(70.9%)となっており(表1-1参照)、全道と比較して第一次産業の比率が高くなっている。

一方で、本市の農家戸数を見た場合、専業農家、兼業農家いずれにおいても減少傾向を示している。(表1-2参照)

近年、全国各地の第一次産業比率の高い地域において、第一次産業の衰退が地域全体の衰退に結びつく例が多く見られることから、第一次産業の活性化のための方策を検討する必要は高いものと考えられる。この点を踏まえ「食を通じたまちおこし」に向けた検討を行い、基本的な内容を取りまとめたものが本構想である。

表 1-1 産業別就業者数の推移

(単位：人・%)

区 分		平成7年	平成12年	平成17年
就業者総数	伊達市計	17,530 (100.0)	16,942 (100.0)	16,589 (100.0)
	旧伊達市	16,599 (100.0)	16,189 (100.0)	15,838 (100.0)
	大滝区	931 (100.0)	753 (100.0)	751 (100.0)
	全道	2,791,457 (100.0)	2,701,856 (100.0)	2,553,400 (100.0)
第1次産業	伊達市計	2,282 (13.0)	1,937 (11.4)	1,797 (10.8)
	旧伊達市	2,138 (12.9)	1,822 (11.2)	1,687 (10.6)
	大滝区	144 (15.5)	115 (15.3)	110 (14.6)
	全道	251,434 (9.0)	217,908 (8.1)	200,822 (7.9)
第2次産業	伊達市計	4,207 (24.0)	3,641 (21.5)	3,038 (18.3)
	旧伊達市	3,959 (23.9)	3,575 (22.1)	2,988 (18.9)
	大滝区	248 (26.7)	66 (8.7)	50 (6.7)
	全道	658,540 (23.6)	602,859 (22.3)	495,496 (19.4)
第3次産業	伊達市計	11,041 (63.0)	11,364 (67.1)	11,754 (70.9)
	旧伊達市	10,502 (63.2)	10,792 (66.7)	11,163 (70.5)
	大滝区	539 (57.8)	572 (76.0)	591 (78.7)
	全道	1,881,483 (67.4)	1,881,089 (69.6)	1,857,082 (72.7)

(出典：国勢調査)

表 1-2 農家戸数の推移

(単位:人・%)

区 分	伊達市			旧大滝村		
	平成7年	平成12年	平成17年	平成7年	平成12年	平成17年
農 家 戸 数	622	581	557	66	60	51
専 業	276(44.4)	252(43.4)	262(47.0)	27(40.9)	31(51.7)	18(35.3)
兼 業	1 種	165(26.5)	129(22.2)	115(20.7)	21(31.8)	17(33.3)
	2 種	181(29.1)	132(22.7)	98(17.6)	18(27.3)	8(15.7)
自 給 的 農 家		68(11.7)	82(14.7)		5(8.3)	8(15.7)

(出典：世界農林業センサス)

## 1-2 伊達市における食資源の現状

本市の農作物(穀類除く)は、表 1-3 で示すとおり、北海道内で生産される野菜のほぼ全てが生産可能である。さらに表 1-4 で示す水産物だけでなく、畜産物も産出されており、一地域で海・山・土の恵みが生産可能であるという「多様性」が本市の食資源の最大の特徴である。

この多様性という特徴は、食に関する多様なニーズに柔軟に応えることが可能である一方、独自性のある特徴や他地域との差別化を図ることが容易ではなく、「食を通じたまちこし」を進めていく上で、プラスとマイナスの両面を有していることを踏まえた検討が必要となる。

表 1-3 旧伊達市における農作物の収穫状況 (JA 伊達市取扱分)

順位	品 目 名	H16年度実績 面積 (ha)	H16年度実績 数量 (t)	H16年度実績 金額 (千円)	H16年度実績 総面積に 占める割合	H16年度実績 総数量に 占める割合	H16年度実績 総金額に 占める割合	H16年度実績 (ha 収穫量)	H16年度実績 (t 単価)	H16年度実績 (ha 収益額)	H16年度実績 順位(面積)	H16年度実績 順位(数量)	H16年度実績 順位 (ha 収益額)	順位合計
1	北 び かり	62.0	2,636	231,173	13.0%	20.7%	12.2%	42.52	87.7	3,728.6	2	1	10	13
2	ト マ ト	14.7	1,364	327,572	3.1%	10.7%	17.3%	92.79	240.2	22,283.8	10	3	2	15
3	玉 菜	25.0	1,131	112,416	5.2%	8.9%	5.9%	45.24	99.4	4,496.6	7	4	8	19
4	ブロッコリー	83.7	711	277,372	17.6%	5.6%	14.6%	8.49	390.1	3,313.9	1	8	11	20
5	レ タ ス	42.0	1,002	131,704	8.8%	7.9%	6.9%	23.86	131.4	3,135.8	5	5	12	22
6	長 葱	22.4	565	159,487	4.7%	4.4%	8.4%	25.22	282.3	7,120.0	9	9	5	23
7	馬鈴薯(加工)	41.4	1,682	69,328	8.7%	13.2%	3.7%	40.63	41.2	1,674.6	6	2	17	25
8	水 菜	12.0	272	131,200	2.5%	2.1%	6.9%	22.67	482.4	10,933.3	11	12	3	26
9	白 菜	25.0	874	78,231	5.2%	6.9%	4.1%	34.96	89.5	3,129.2	8	6	13	27
10	南 瓜	52.0	763	67,392	10.9%	6.0%	3.6%	14.67	88.3	1,296.0	3	7	20	30
11	スイートコーン	51.0	559	73,766	10.7%	4.4%	3.9%	10.96	132.0	1,446.4	4	10	19	33
12	馬鈴薯(生食)	7.9	325	31,714	1.7%	2.5%	1.7%	41.14	97.6	4,014.4	13	11	9	33
13	ホ ー レ ン 草	10.7	140	68,500	2.2%	1.1%	3.6%	13.08	489.3	6,401.9	12	15	6	33
14	セ ル リ ー	6.0	227	54,148	1.3%	1.8%	2.9%	37.83	238.5	9,024.7	16	14	4	34
15	軟 白 長 葱	1.01	68	37,331	0.2%	0.5%	2.0%	67.33	549.0	36,961.4	19	17	1	37
16	玉 葱	6.8	262	13,954	1.4%	2.1%	0.7%	38.53	53.3	2,052.1	14	13	16	43
17	カリフラワー	6.5	70	14,824	1.4%	0.5%	0.8%	10.77	211.8	2,280.6	15	16	15	46
18	メ ロ ン	0.76	6.5	4,184	0.2%	0.1%	0.2%	8.55	643.7	5,505.3	20	20	7	47
19	ビ ー マ ン	2.5	39	6,785	0.5%	0.3%	0.4%	15.60	174.0	2,714.0	18	19	14	51
20	チ ン ゲ ン 菜	3.5	60	5,754	0.7%	0.5%	0.3%	17.14	95.9	1,644.0	17	18	18	53

各品目を「面積」「数量」「収益額」の視点から NTT データ経営研究所が順位付けした。

(出典：JA 伊達市の資料をもとに NTT データ経営研究所にて作成)

表 1-4 伊達市における魚種別漁獲高状況

順位	品目名	H18年漁獲高 (ト)	H18年漁獲高 (千円)	漁獲高総合計 に占める割合 (数量・%)	漁獲高総合計 に占める割合 (金額・%)	漁獲高順位 (数量)	漁獲高順位 (金額)	順位合計
1	ほたてがい	4952.7	779,566	81.1	65.6	1	1	2
2	さけ類	859.3	265,908	14.1	22.4	2	2	4
3	かれい	48.8	19,507	0.8	1.6	4	4	8
4	その他の魚類	130.5	17,077	2.1	1.4	3	5	8
5	なまこ類	22.8	44,225	0.4	3.7	6	3	9
6	からぶとます	29.3	5,352	0.5	0.5	5	10	15
7	ひらめ	6.6	10,752	0.1	0.9	8	7	15
8	たこ類	11.9	7,031	0.2	0.6	7	9	16
9	けがに	5.3	8,352	0.1	0.7	12	8	20
10	さくらます	5.4	3,427	0.1	0.3	11	11	22
11	そい	6.4	2,317	0.1	0.2	9	14	23
12	うに類	1.9	13,555	0.0	1.2	18	6	24
13	あいなめ	4.4	2,506	0.1	0.2	13	13	26
14	ほっけ	6.1	885	0.1	0.1	10	17	27
15	はたはた	3.7	1,100	0.1	0.1	15	16	31
16	つぶ	3.6	1,678	0.0	0.2	16	15	31
17	その他の水産動物	0.8	2,900	0.0	0.3	19	12	31
18	かたくちいわし	4.0	402	0.1	0.0	14	20	34
19	こまい	2.2	242	0.0	0.0	17	21	38
20	こんぶ類	0.8	403	0.0	0.0	19	19	38
21	わかめ類	0.4	550	0.0	0.0	22	18	40
22	するめいか	0.4	180	0.0	0.0	22	22	44
23	さめ類	0.6	27	0.0	0.0	21	25	46
24	まだら	0.1	49	0.0	0.0	25	23	48
25	あさり類	0.1	42	0.0	0.0	25	24	49
26	さば類	0.1	26	0.0	0.0	25	26	51
27	まいわし	0.1	21	0.0	0.0	25	28	53
28	すけとうだら	0.1	21	0.0	0.0	25	29	54
29	ずわいがに	0.3	20	0.0	0.0	24	30	54
30	にしん	0.0	22	0.0	0.0	30	27	57
31	のり類	0.0	7	0.0	0.0	31	31	62
32	その他のかに類	0.0	1	0.0	0.0	32	32	64

各品目を漁獲高「数量」「金額」の視点から NTT データ経営研究所が順位付けした。

(出典：伊達市商工水産観光課の資料をもとに NTT データ経営研究所にて作成)

### 1-3 基本構想の位置づけ

「食を通じたまちおこし」のためには、農・水産・畜産業に関わる生産者のみならず、「食」に関わる加工・小売・飲食業等を含めた事業者全体、さらには食育等の活動を通じて消費者まで含めた地域全体での取組みが不可欠である。地域全体で本市の基幹産業である第一次産業の活性化を起点に地域全体を活性化させていくための基本的な考え方をまとめたものが本構想である。

本構想の実現により、地域における雇用の創出、食資源の販路拡大、市民の健康増進が期待され、最終的には市全体のイメージアップとそれに伴う観光との相乗効果といった好循環が期待される。